

一般財団法人 みやぎん経済研究所 宮崎銀行ふるさと振興助成事業

産業開発部門



株式会社 エフテック
代表取締役 白羽根 健一郎
延岡市鹿狩瀬町1568-9

事業内容 菌床用栽培袋 (Vシール) の商品開発

当社は、菌床用栽培袋(商品名:STバック)を製造、販売しており、このSTバックには特許技術(Vシール、菌床の形を綺麗にする)が採用されている。安定した品質と収穫量を得ることができる袋として他社との差別化を図っており、売上国内シェアトップクラスを誇る。更に当社の強みは、袋の製造機械を自社で内製しており、製造コストを下げることで、価格競争に強い製品の製造に成功している点にある。今後は海外への販売も目指しており、当社の製品が日本のみならず世界へ広がるのが期待されている。

地方創生部門



社会福祉法人 ゆくり
理事長 富村 博光
宮崎市東大宮4-23-1

事業内容 芸術を通じた障がい者による表現・交流活動

当法人は理念である「障害のある人ない人が共に尊重し合い、住みよい社会を創り出す」を掲げ、障がい者の社会参画を目指して活動している。特徴は利用者が芸術、特に絵画を描くことを目的に集い、才能に溢れた芸術活動をしている点にある。事業所「アートステーションどんごや」は障がい者による表現、交流活動の拠点となっており、作品は県や市の美術展、パリの国際展にも出展するなど海外からも高い評価を受けている。今後は展示会を開催するなど、地域に根ざした文化芸術活動を行い、一人一人が個性や能力を発揮できる社会づくりに貢献する。

学術研究部門



宮崎大学 農学部応用生物科学科
准教授 平野 智也
宮崎市学園木花台西1-1

事業内容 重イオンビーム育種技術の高度化

重イオンビームとはヘリウムより重いイオンを加速して得られる放射線であり、これを植物に照射することで効率的に突然変異を起こすことができる。平野准教授の研究は、重イオンビーム照射による突然変異を適切に評価することで偶然から必然に近づけることを目指している。これまでの成果が認められ令和5年度に「日本育種学会賞」を受賞しており、現在では宮崎県の重要品目であるサツマイモの基腐病に強い品種の開発に役立っている。今後、この研究は花卉植物の新品種開発にも活用され、県内農業の発展に貢献することが期待されている。

【2024年度】第43回 〈宮崎県〉

助成先 決まる

ごあいさつ

宮崎銀行ふるさと振興助成事業の助成対象となられた皆さま、誠におめでとうございます。

宮崎銀行ふるさと振興助成事業は、株式会社宮崎銀行が創立50周年を記念して、地域産業の振興と発展に貢献することを目的に開始し、これまでに宮崎・鹿児島両県で累計380先に3億2,970万円の助成を行っております。今回の助成につきましても、皆さまの取り組みや研究が地域の発展に大きく貢献していくと確信しており、また皆さまの活動を一層飛躍させる一助になれば幸いです。

今後も本助成活動を通じ、地域の皆さまの活動・研究を支援していくとともに、助成先の皆さまの更なる発展を心より祈念いたします。

一般財団法人 みやぎん経済研究所
理事長 杉田 浩二

地方創生部門



公益社団法人 みやざき被害者支援センター
理事長 近藤 日出夫
宮崎市旭1丁目2-2(県企業局庁舎2F)

事業内容 犯罪被害者等への支援活動

当センターは、不幸にして事件や交通事故等に巻き込まれた被害者および家族やご遺族が抱える不安や悩みの相談受付、解決支援を行っており、県内で唯一宮崎県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」として認定されている民間の支援団体である。事業の内容としては、電話・面接相談、法律相談、病院・警察への付添い、臨床心理士による無料カウンセリングなどの支援、広報・啓発活動などがあげられる。近年、被害者に対する当センターの果たす役割は大きく、重要性が高まる中、今後も社会貢献度の高い支援活動が期待されている。

地方創生部門



宮崎市ぎょうざ協議会
会長 渡辺 愛香
宮崎市新別府町雀田1185

事業内容 餃子の販売促進に係る事業

当協議会は宮崎の新たな特産品として「宮崎餃子」を全国にPRすべく活動している。総務省の家計調査で、宮崎市は2021年、2022年に餃子の支出金額と購入頻度で全国1位となっている(2023年度は支出金額2位、購入頻度は1位)。この活動を通じて県内の農業生産者や、市民県民の消費者と共に宮崎を盛り上げていきたいとの思いは強いものがある。更に「宮崎餃子」は今や観光資源の一つになっており、餃子を通して宮崎への観光誘致に繋げ、観光業の発展にも寄与する取り組みを続けている。

学術研究部門

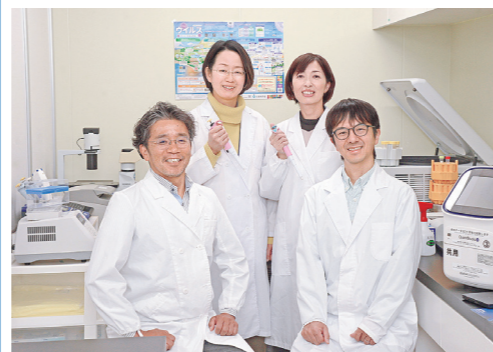


宮崎県総合農業試験場 生物工学部
部長 大田 哲史
宮崎市佐土原町下那珂5805

事業内容 薬培養技術が切り拓くピーマン新品種開発

当試験場では、薬培養という技術を使ってピーマンの新品種開発に取り組んでいる。宮崎県農業の基幹品目であるピーマン及びカラーピーマンは、元々品種が少なく、さらなる収量向上のためには、新たな多収性品種の開発が求められていた。この薬培養は長年培った技術であり、新品種開発の期間が短縮できるという優位性がある。中でも先行して開発されたカラーピーマン新品種は普及に向け生産・販売の取組みが始まっている。当試験場は薬培養で作出した育種素材の提供や共同研究を積極的に行っており、ピーマン新品種育成が宮崎から全国に広がるのが期待される。

学術研究部門



宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンター
准教授 目堅 博久
宮崎市学園木花台西1-1

事業内容 伴侶動物におけるSFTSの実態解明

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)はマダニ媒介性の新興ウイルス感染症であり、高い致死率が特徴である。目堅准教授は、2021年より猫と犬で700検体以上のSFTS検査を行い、データを積み重ねることにより実態をより詳細に解明している。この研究はヒトへの二次感染を防ぐという点で、全国で最も感染者数が多い宮崎県にとって非常に重要な研究となっている。この研究は英文の専門誌にも掲載されており、今後、伴侶動物における感染状況を把握することで、飼い主などヒトへの感染リスクを低減することが期待されている。